

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名

【 熊本県 】 菊陽町立武蔵丘北小学校

1 実践テーマ	【 Ⅲ, V 】
2 実施対象者	生徒 356 名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 道徳 )</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会への機運を高める。また、パラリンピアンへの講演を通して障害者理解を深める。
5 取組内容	<p>パラリンピアンによる講演会及び実技指導</p> <p>平成29年11月21日(火)に本校にて、鈴木徹氏(パラ陸上：走り高跳び)を迎え、講演会及び実技指導を行った。</p> <p>(1) 講演</p> <p>『義足を翼に変えて』という題で行われた講演では、鈴木氏が事故にあった経緯、出場したパラリンピックシドニー大会及び北京大会のときの思い出、そしてスポーツを頑張ろうと思ったきっかけなどについてお話いただいた。</p> <p>講演の最後には、子どもたちに、「みんなにとって義足は怖いものかもしれないが、私達が生活していくうえで大切なもの。障害者の人達と出会ったら、驚くかもしれないけど、こそこそせずに話しかけて欲しい。みんなと同じ、友達だから」とメッセージを頂いた。</p> <p>(2) 実技指導</p> <p>実技指導では、競技用の義足を見せながら使い方の説明があった。その際、義足の使い方次第でパフォーマンスを高めることはできるが、義足の使い方が重要である、というお話だった。</p> <p>質問コーナーでは、以下の質問と回答が行われた。</p>

	<p>「何で夢をあきらめないのか？」 ⇒「僕はジャンプが好きだから、これからもあきらめず頑張る」</p> <p>「どういう気持ちでパラリンピックにでたのか？」 ⇒「日本代表にあこがれた。ジャージなどがいっぱい送られてきてすごく嬉しかった」</p> <p>「事故があってからどうやって立ち直った？」 ⇒「乗り越えていけるのは、友人たちのお陰。事故にあって300人近くがお見舞いに来てくれ、いろいろな人が力をくれた」</p>
6 主な成果	子どもたちの障害者の対する意識が変わった。
7実践において工夫した点 (事業の 特色)	講演の中で、実際に義足で高跳びをしてもらう場面を設けて、パラリンピアンのごさを認識してもらうように努めた。
8主な課題等	児童の日常的な生活に活かしていけるような取り組みを実施していきたい
9来年度以降 の実施予定	実施予定